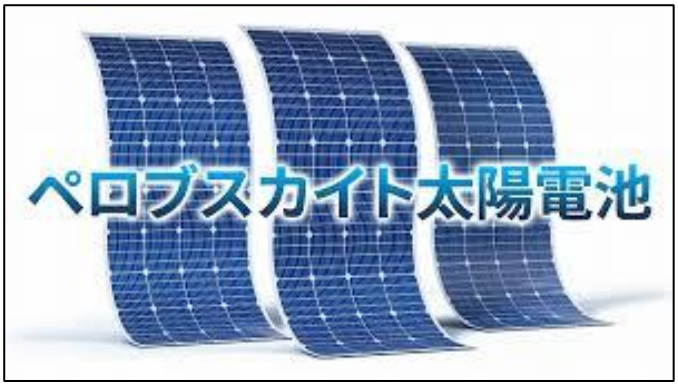
デジタル版
2025年
03月20日号
Vol. 150

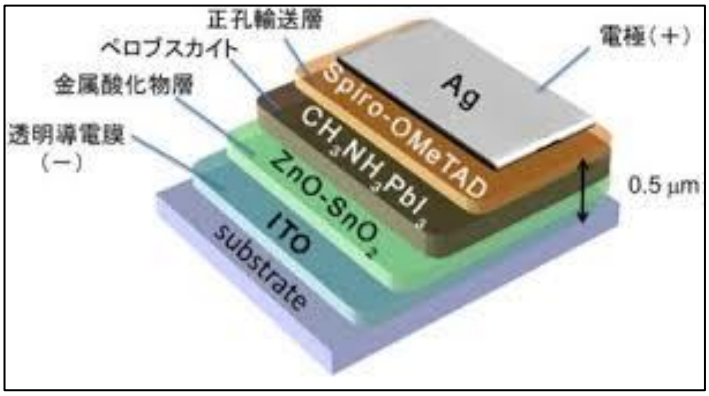
成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都企業がペロブスカイト太陽電池事業に進出



京都の製造業で「ペロブスカイト太陽電池」事業に進出する動きが加速している。南区に本社がある片岡製作所は、国からの50%の補助金も含め約70億円を投資して、製造加工装置の新工場を2棟建設し、現在の売上の10倍の年間100億円の事業にする構想を発表した。電池の量産投資は、積水化学工業が堺市のシャープから取得する堺本社工場で2027年から本格生産を開始する。京都大学発のスタートアップ企業エネコートテクロノジーズも宇治市内で初めての生産工場を建設する。＜解説＞ペロブスカイト太陽電池は灰チタン石の中に存在する特殊な結晶構造を持つ物質の名称。光が弱くても効率的に吸収し、発電をする。従来主流のシリコン製の太陽電池パネルより大幅に薄くでき、軽く、低コストで生産できる。一番の特徴は薄いという特性を利用して、曲がるということだ。曲面に装着でき、次世代のソーラ発電システムの切り札として期待されている。ペロブスカイト電池の原材料のひとつであるヨウ素は日本が産出量の世界で第2位。日本政府は、このパロブスカイト太陽電池の生産量を2040年に原子力発電所20基に相当する20ギガワットにまで高める青写真を描いている。曲面に装着できるという特性は非常に意味があり、装着できる場所が無限大に拡がる。車の天井、建物の曲面、その他多くの装置の外壁面に取り付けることが可能になる。片岡製作所は、もともとレーザー加工機で有名な企業で、このペロブスカイト太陽電池製造工程で用いるレーザーで溝を作って絶縁し最小単位のセル＝電池を製造する装置を手掛ける。このペロブスカイト太陽光電池が普及すると主流のシリコン系太陽光電池市場が大きく変わる可能性がある。もともと京大発のベンチャー企業が開発した技術だが、ここに及んで多くの製造業がこの分野、市場の進出に乗り出した。今後の太陽光発電ビジネスの主力になる可能性が高く、市場動向に注目が集まる。



BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611 FAX:075-366-6100 info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.